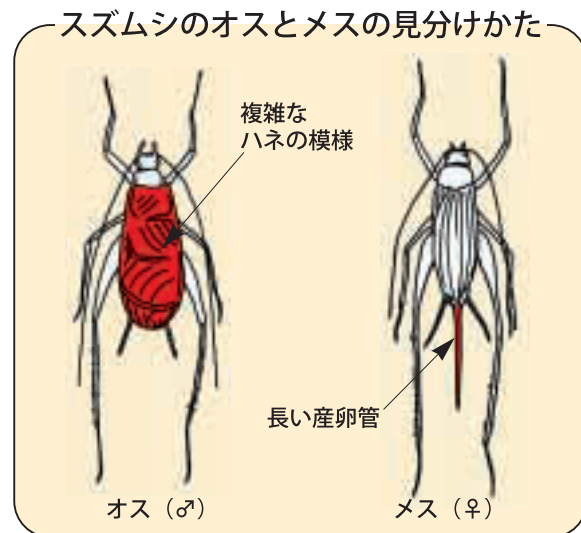


[スズムシの飼いかた]

飼育容器の準備

- スズムシは夜活動するので、暗いところが好きです。
→植木鉢のかけらなどを入れて、かくれ場所を作る。
- スズムシはじめじめしたところが好きです。でも、しめらせ過ぎは禁物！
→しめらせた園芸用の赤玉土などを容器の下にしき、その上にフライパンでよく焼いた砂（熱で殺菌をする）をしく。
→地面はつねにしめらせておく。
でも、容器の底に水がたまらないようにする。
- アミのふたの下に新聞紙をはさむ。
→容器内の水分の蒸発をおさえる。
- 20×12cmの容器に、オスとメス合わせて10匹ほどが適当です。
(オスとメスは同数の方がよい)



幼虫と成虫のエサ

- スズムシは雑食性なので、いろんなものを食べる。
 - *ナス・キュウリ・キャベツ・リンゴなどの野菜や果物は栄養になるうえ、**水分の補給**にもなる。
 - 中でも **キャベツ** は日持ちがよい。
 - *スズムシは共食いをするので、ニボシやケズリブシなどの動物性タンパク質のエサも必要です。
 - ニボシは粉末** にする方がよく食べる。
(成長も早い！)
 - *パンやビスケットなども食べる。
- エサは **皿に入れる** か、つまようじ（竹串）などで **くしざし** にする。
→直接土の上にエサを置くと、カビたり、くさりやすくなる。
- エサは2～3日おきに交かんする。

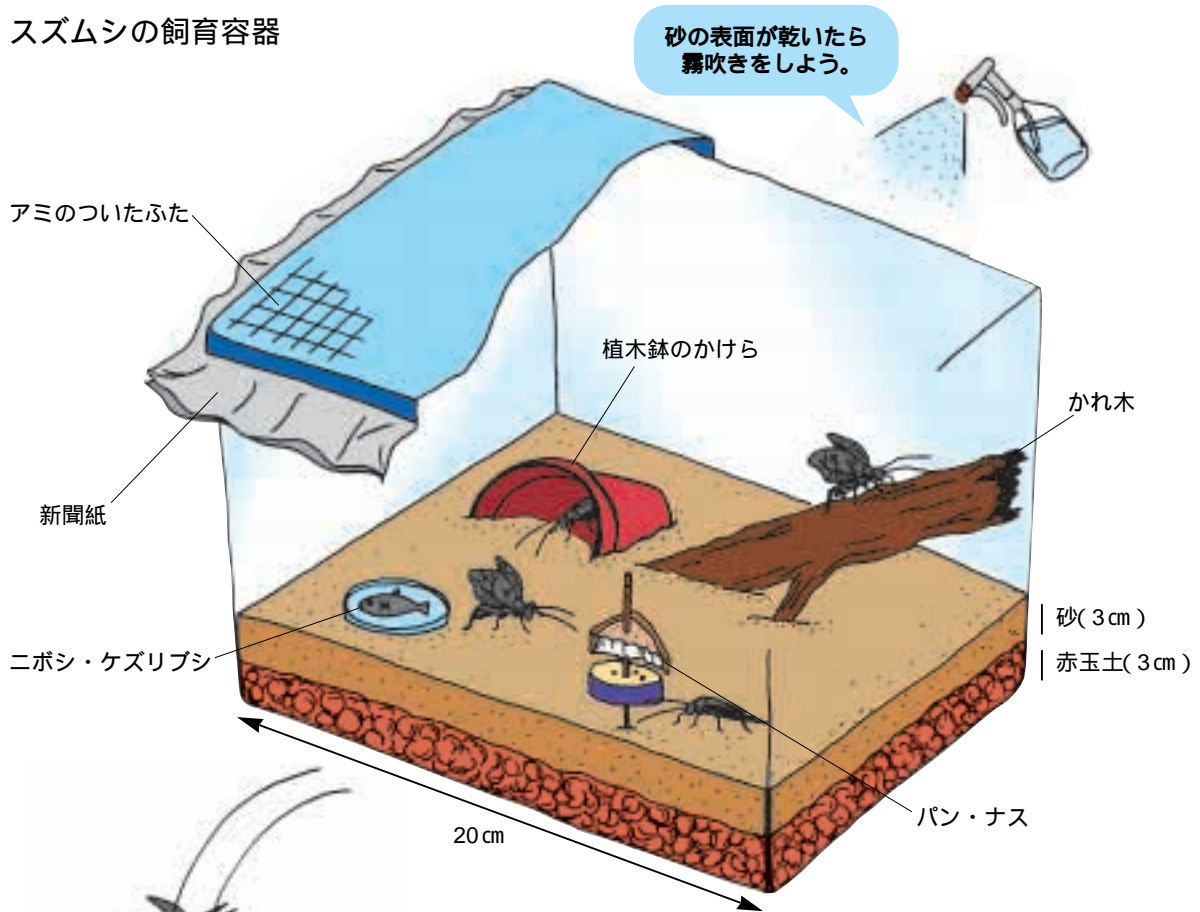
ニボシがあればボクらは
共食いをしないよ



その他の注意

- 直射日光の当たらない** ところに置くこと。また、冷房のかかっている部屋には置かないようにする。
- スズムシの死がいやエサの残りカスは、毎日取り除く。
- 土にカビが生えたり、フンなどで汚れてきたら、交かんする。
→スズムシが **鳴き出したら土の交かんはしない** こと！（産卵が始まるため）

スズムシの飼育容器



かれ木は、かくれ場所にもなるけど、脱皮するときに体を固定するための足場として必要なんだ。

産卵と卵の管理

オスが鳴くようになる8月中ごろから、交尾をする。

9月～10月ごろにメスが卵を産む。

全てのスズムシが死んだら、エサ・植木鉢などを取り除いて土のみの状態にする。(死がいやエサの残りカスも取る)

1匹のメスで、100～200個ほどの卵を産む。

卵は1センチほどの深さに1卵ずつバラバラに産みつけられているので、土の一部を少し掘って卵を確認する。

卵の入った容器は暖房のかからない車庫などの冷暗所に置いて、砂の表面が乾かないようにときどき霧吹きで水分を補給する。

水分の蒸発を防ぐために、ふたの下には新聞紙をはさむ。

5～6月ごろになると、卵から幼虫が出てくる。

スズムシのタマゴ

